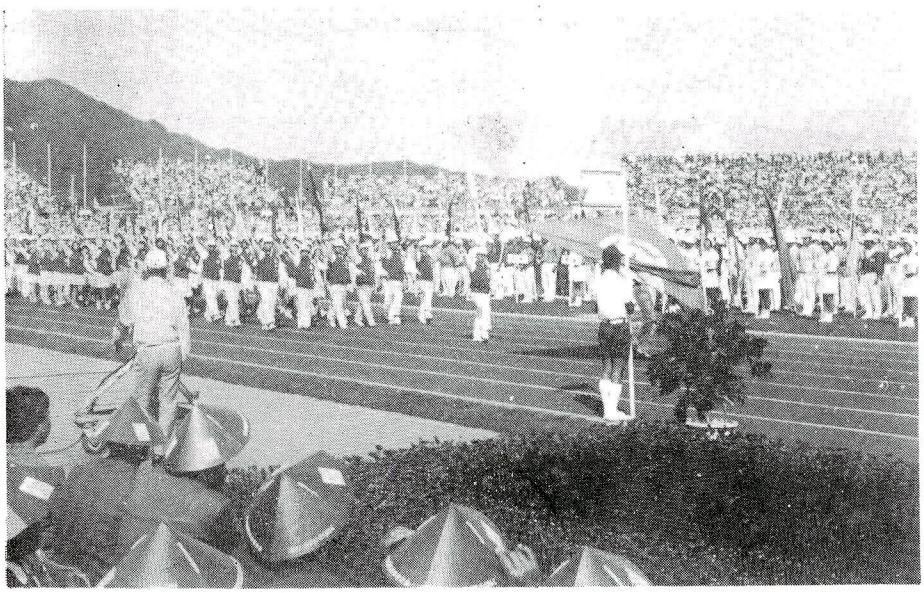
『水と緑の
まごころ国体』

国体だより

第1号
47年1月25日
発行 国体高萩市実行委員会
編集 高萩市国体事務局
印刷 藤枝印刷所

成功させよう 四十九年茨城国体

高萩市は軟式野球（準硬式）



第26回和歌山国体開会式・茨城県選手団の入場行進

茨城国体を迎えて

高萩市長　鈴木藤太

第二十九回国民体育大会が、わが郷土茨城に開催されることが昨年六月に決定されましたことは、誠に喜びにたえません。

国体が昭和二十一年十一月、初めて京都で開かれてから二十六回戦後の若い芽は今ではりっぱに成長し、成年の樹となり大樹に成長しようとしています。この時水と緑に恵まれた美しい自然の中に、すぐれた歴史と伝統をうけついだ茨城が国体開催県となり、わが市が一般軟式野球の準硬式野球の会場として、四十九年の国体を迎えることができますことは、わが市の発展と住民意識の向上のために大いに貢献することと信じます。

国体会場地として引き受けた以上は施設の整備にも万全を期し、昨年より建設中の市営野球場も立派に完成させ、遠来の客を心から歓迎したいと存じます。今年はその成功を期するために国体リハーサルを兼ねた高松宮賜杯全国野球大会も計画しております。

市民のみなさん、このときにあたりひとりひとりが国体を明るく楽しく迎えるための運動を一段と進め、みんなの力で国体の成功をめざそうではありませんか。

高萩市議会議長　大和田知之

昭和四十九年に第二十九回国民体育大会が茨城県で開かれるにあたり、高萩市で準硬式野球大会が催されることになりましたことはすでにご周知のことと思います。

この茨城国体を成功させるため県では「水と緑のまごころ国体」のテーマをかかげ、目下那珂町に主競技場をはじめ、各種競技施設の整備を進めております。本市もこの大会に対応して本年九月に実施されるリハーサル大会に間に合わせるべく、野球場の新設、関連道路の整備を急いでおります。

また昨年十一月県下各市にさきがけて国体高萩市実行委員会を結成いたしております。今後は市民一人一人に国体のもつ意義の認識と理解を深め、国体ムードを高めながら、まごころをもって人々を迎えるため市民運動を推し進めることが必要であります。

全市民が力を合せて「まごころ国体」の名にはじないよう、そして郷土茨城のすぐれた歴史と輝かしい伝統をけがすことのないよう茨城国体の成功をめざして努力いたしましょう。

第二十九回茨城国体のあらまし

四十九年十月に開かる

基本方針

国民体育大会の本旨に沿い、二〇〇万県民の英知と創造力を集めて躍進茨城の象徴にふさわしいスポーツの祭典を実現し、スポーツの振興を通じて県民の体力の向上と気力の充実を図り明るく豊かな県民生活の基盤づくりに寄与する。

実施目標

㈠県、市町村、体育団体及び関係団体の緊密な連係のもとに県民総参加の態勢をととのえ、清新な大会の運営と参加者の受入体制の万全を期する。

㈡本県選手団の活躍を期してスポーツ人口の増大と選手の育成強化につとめ、本県スポーツ発展の基盤を確立するとともに広く県民にスポーツを普及してその生活化につとめ、明るく健全な生活環境の醸成に資する。

㈢茨城国体を全県民あげて成功させるための県民運動を広く展開し、この運動を通じて県民の国体参加の意欲を高めつつ郷土を愛し、友愛に満ち、創造的気風に富んだ県民づくりを推進する。

㈣国体開催を契機として、体育施設の整備充実を図るとともに国体開催に関連する各種社会生活施設の整備を促進し、産業開発の進展に調和した社会開発の推進につとめる。

㈤大会参加者を暖く迎え、茨城のゆい緒ある歴史と躍進しつつある現状を紹介して各都道府県との親善を深める。

一、実施種目

国体の実施種目は、競技種目、公開種目　および集団演技となっております。このうち天皇杯、皇后杯をかけて争うのは「競技種目」だけです。

二、会期と会場

第二十九回にあたる茨城国体は、夏季と秋季に分けて行なわれます。

秋季大会は十月中二十八種目を六日以内とされています。

期日については、過去何日間の気象を調査して、慎重に検討された上で、決められることになっております

会場は、那珂町に、建設中の、陸上競技場を主会場に県下十五市七町四村の全県下におよんでいます。

三、参加者

高萩市で開催される競技に参加する予想人数

中央競技役員	一六人
選手監督	一五〇人
競技会役員係員	二五〇人
競技会補助員	五〇人
協力婦人会員	一五〇人
報導員視察員	四一〇人
計	一、〇二六人

この国民体育大会は、終戦間もない昭和二十一年十一月、戦争の苦しみを少しでも忘れ、スポーツを通じて国民に希望と勇気を与えるために計画されたのが国民体育大会のはじまりです

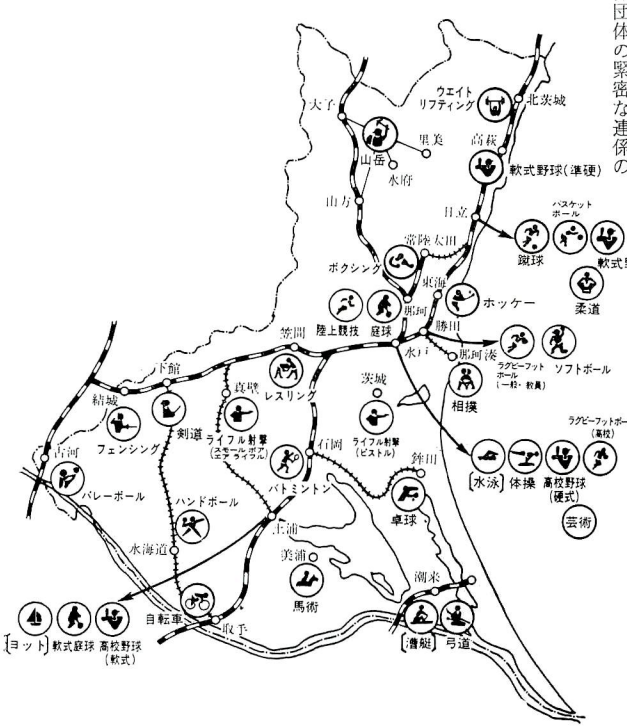
「国体は国民の各層を対象とする」国民のスポーツ祭典として、毎年各都道府県もちまわりで、開催されております。

夏季大会と秋季大会は原則として、同一県内でひらかれ、国体の主催者は、財団法人日本体育協会・文部省開催県三者の、主催によって行なわれます。

目的

国民体育大会は、広く国民の間に、スポーツを普及し、アマチュアリズムと、スポーツ精神を高揚して、国民の健康増進と、体力の向上を計り、併せて地方のスポーツの振興と、地方文化の発展に、寄与するとともに、国民生活を、明るく豊かにしようとするものであります。

第29回国民体育大会会場地一覧



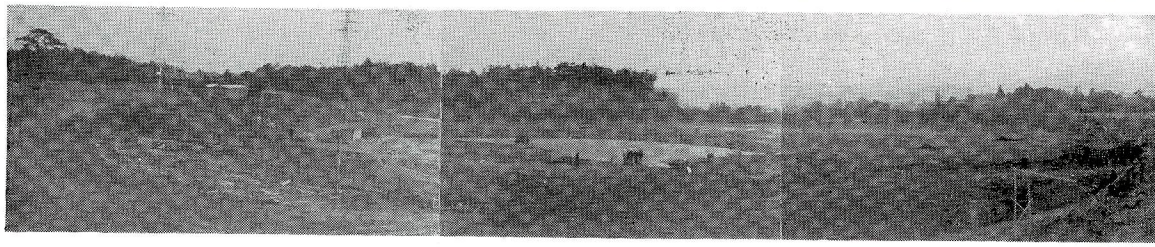
国体のあゆみ

第一回は京都・大阪・奈良で

昭和四十九年に行なわれる第二十九回国民体育大会は天皇、皇后両陛下をお迎えして、全国各地から約二万五千人の大会関係者参加のもとに、県下十五市七町四村の五十五会場において開催されます。

国体の今までに開催された県
これから開催される県

	回数	開催都道府県	開催年
既開催県	①	京都.大阪.奈良	S 21
	②	石　川	S 22
	③	福　岡	S 23
	④	東　京	S 24
	⑤	愛　知	S 25
	⑥	広　島	S 26
	⑦	宮城 福島.山形	S 27
	⑧	愛媛.香川.徳島 高知	S 28
	⑨	北海道	S 29
	⑩	神奈川	S 30
	⑪	兵　庫	S 31
	⑫	静　岡	S 32
	⑬	富　山	S 33
	⑭	東　京	S 34
	⑮	熊　本	S 35
	⑯	秋　田	S 36
	⑰	岡　山	S 37
	⑱	山　口	S 38
	⑲	新　潟	S 39
	⑳	岐　阜	S 40
	㉑	大　分	S 41
	㉒	埼　玉	S 42
	㉓	福　井	S 43
	㉔	長　崎	S 44
	㉕	岩　手	S 45
	㉖	和歌山	S 46
開催決定県	㉗	鹿児島県	S 47
	㉘	千葉県	S 48
	㉙	茨城県	S 49
内定県	㉚	三重県	S 50



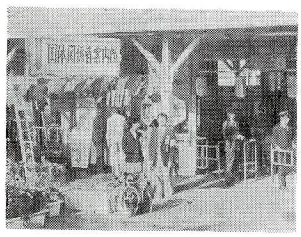
すすむ国体の準備

市営野球場は七月に完成

㈠、国体高萩市実行委員会と国体事務局

茨城国体全般についての企画と準備にあたるため、昭和四十三年四月三十日知事を会長として「第二十九回国民体育大会茨城県準備委員会」が発足しました。昭和四十四年七月二十八日国体茨城県準備委員会総会が開催され、その席上開催種目軟式野球（準硬式）が高萩市に内定されました。これを機会に、昭和四十六年二月十六日関係企業、関係各官庁、体育関係者、さらに市内各界層の方々のご参加を得て、高萩市準催委員会（実行委員会）が結成されました。

一方市では市長部局に国体に関して他の部課所ならびに議会および他の機関団体との連絡、準備委員会（実行委員会）との連絡をはかり国体準備業務推進のため国体事務局を昭和四十六年七月一日より設置しました。さらに今後は、国体実行委員会の事務局と高萩市国体事務局が一体となって、国体の準備を進めます。



△和野地内に建設工事を急ぐ市営野球場

◁和歌山国体駅前案内所

㈡、競技施設

高萩市で開催される軟式野球（一般準硬式）の会場となる高萩市営野球場も建築工事に着手し、昭和四十七年七月完成を目指して進行しております。野球場の広さは総面積、一二、九六六平方メートル、両翼九十一メートル、中堅が一二〇メートルあり観衆は一万人取客出来る正式野球場です。

また、主なる付属施設として、事務室、更衣室、医務室、役員室、控室、会議室放送室、記録室、便所、審判控室、ホール、メインスタンド、内、外野スタンドダックアウトなどが設備されます。

一方各会場地市町村でも施設の整備に相当の力を入れており　これまで施設の不足や、不備をかこっていた本県スポーツ界に今後一段の飛躍が期特されると思います。

㈢、輸送交通関係

選手団のほとんどは開会式前日までに国体臨時列車により、各会場地に到着しますが、遠来からの選手を真心と親切をもって迎えるため、各駅に案内所が設けられ湯茶の接待などが行なわれます。

当然高萩駅前にも案内所湯茶の接待所が設けられますので、市民の皆様のご協力を得る事になるわけです

秋季大会開会式当日は、高萩市内に宿泊する選手団（約二五〇人）を式場への輸送と終了後輸送のため約五台のバスが用意されます

㈣、選手、役員などの宿泊対策

国体に参加する役員、選手、報導員、視察員等関係者の大会期間中における宿泊に、県および高萩市が責任をもって世話することになります。そしてその宿泊は、衛生上の管理や、連絡上の便宜のため、旅館が原則となっております。

高萩市の場合宿泊を予想される人員は約五九〇人　それらの収容能力については開催時まで年度毎に細密な調査が必要となってきます

参考までに、昭和四十六年七月に実施した宿泊施設実態調査の結果によれば一般宿泊施設（旅館）一八軒で、宿泊可能人員は九五〇人であり、宿泊については問題ないと思われます。

㈤、競技運営とその他の準備

二〇〇万県民の総力を結集して行なわれる、茨城国体運営の完璧を期するためには、競技役員、補助員の養成が第一となってきますので、中央競技団体の指導をうけ、県内競技団体関係者、高萩市関係者の各種研修会、又審判員養成のため野球審判技術講習会を開催して、技術の向上につとめております。

四十七年九月には競技会運営の実態に応じて万全を期するため、リハーサル大会として、新装なった高萩市営球場で、高松宮賜杯第十六回全日本軟式野球大会を開催することが決定しております。

以上の外に国体を成功させるためには、通信の整備警備、保健衛生に関すること、選手強化の問題等をあげれば大小無数の準備が必要となってきます。

これらの準備は、県国体局及び県実行委員会と市実行委員会が密接な連係をとり一体化して進めるものです。

九月に高松宮杯開かる

新設の市営球場で

昭和四十七年九月十五日から十八日までの四日間、新設された高萩市営野球場と高浜町の総合グランドの両球場を使って、高松宮賜杯第十六回全日本軟式野球大会が開催されることになりました。

この大会は昭和四十九年に開催される第二十九回茨城国体のリハーサルとして開催されるものです。

高松宮賜杯大会は、一部（B級＝十六チーム）、二部（C級＝十六チーム）に別れて、第一部は日立市、第二部は高萩市で行なわれることになり、各県の予選と各ブロックの予選を通過した十六チーム、約三五〇人が参加して行なわれ市内の各旅館に宿泊します。

当大会には、高松の宮殿下をはじめ大会関係者多数参列されます。

この大会を機会に国体を成功させるため街中を花でかざり、親切運動を展開して「明るい、住みよい、まちづくり」実現のために市民一人一人がこの大会に参加して、全国から集まる選手の皆さんを暖かく迎えましょう。

和歌山国体を見て

ミカンと花の紀州路

高萩市体育協会長　沼田吉人

十月二十四日から二十七日まで和歌山国体を視察して感じたことを述べてみます。

国体を開催するにあたって、開催県は基本方針を決めて、それに沿つて実施目標をかかげ本番に結実させる。この実施目標を目標通りに実施できれば大会の盛り上りは成功するわけですが、その中で最も重要なカギを握つているのは県民運動、市民運動であると思われます。

和歌山県では、四年前から「きれいな郷土、親切、まごころ」で国体を迎えようと県民運動を展開して、とくに「きれいにしよう花いつぱい運動、親切にしよう親切運動」を展開してきました。花いつぱい運動では県下一円にサルビア一千万本・マリーゴールド五百万本の花を植えたのをはじめ、競技会場、各駅などには菊三万鉢、黄色に色づいたミカンの鉢植四千二百鉢が飾られてありました。和歌山県といえばミカンの本場、この実の付いたミカン鉢を見たときは、はるばる紀州路にやつてきてすばらしく気持よい感じがしました。

運営についても県実行委員会と競技開催市町村の実行委員会の苦労がよく出ており一例を上げてみると、婦人会などは朝早くから市内の美化運動に努めていました。

また、親切運動でも実に気持よくわたしたちを迎えてくれたあの感激を来る四十九年の茨城国体でわたしたち高萩市民が、全国から集まる選手役員の皆さんを暖かく迎えたいものです。

本県も全県民に運動の趣旨を浸透させて、その運動が茨城国体のときに最高の盛り上りを見せ、高萩市民の皆さんもこの国体を契機に「明るく、住みよい、まちづくり」を推進していただきたいと思います。

県民あげての親切運動

高萩市地域婦人団体連絡会長　大森キク

まさに国体日和、心ゆくまで晴れ渡つた秋空の下、第二十六回和歌山国体の幕開け、天皇、皇后両陛下御臨席のもとに開会式が行なわれました。名にしおう三井寺の緑の山を背景に競技場一杯に色あざやかな風船が秋空にこだまするファンファーレと共に舞い上つた様子は見事なものでした。式に先立つての民族舞踊、そして集団演技は実によく訓練され、多くの人の集団であつてこそ、みられる躍動の美、色彩の美しさを表現し国体の意識をぞんぶんに観衆に示してくれた感激のひとときでした。

幼稚園児から婦人会のおばさんまで長い間の練習さぞかしと思われますが、それにもまして敬服したことは県民運動、市民運動として、国体を目標に推進された実践活動が見事に実つていることでした。

「一つに笑顔で親切、二つに町をきれいに、三つにたくましく」を合言葉に一人一人が実に親切ていねいに接してくれたことは身にしみて感じたことでした。

これは茨城県民としての高萩市民も今から心すべきことだと強く思います。茨城国体がまごころ国体であるならばすべてに対して無限の愛情をもち最大の努力をしなければならないとかたく心に誓つたのでした。

列車からホームに降りたとたんに、あつ、客はこうして迎えるべきであると知らされました。駅の階段は全部水洗いしてありました花いつぱい運動も実によく徹底して、マリーゴールドとサルビアの花が調和よくいたるところに植えられてありました。街のところどころには「よくいらつしやいました」の横断幕が張られわたしたちを親しくねぎらつているのがうれしく感じました。

国体事務局の責任者の方は県民運動の推進最中に国体に突入してしまいましたとのお話しでしたが、わたしたちには和歌山県民一人一人が国体を背負つている気構えがはつきりと感じられ、そのみごとさに心から敬服いたしました。と同時に当市でも市民一人一人にこの意識をもつてもらうための実践活動の推進の重要さを痛感し、何がなんでもやらねばと、心深くちかつた次第でございます。

茨城国体の成功はみんなの力で

㈠高萩市開催の意義

第二十九回国民体育大会が茨城県で開催することになり、高萩市が軟式野球（準硬式野球）競技会場地を受け持ち、そのすべてをひきうけることになつております。

これは単にスポーツ関係者のみならず三万市民の総力を結集して行なわなければその成功はなしえないものがあると考えます。

特に国民体育大会の開催のための準備の成果は、そのまま文化、産業、経済など市勢全般にわたる高萩市の躍進を全国に示す絶好の機会でもあります。

また一人一人が国体の参加を目指して展開されたスポーツの祭典と、市民運動は市民のこころとからだに「たくましさ」とねばり強さ」そして人情豊かな情操をもたらし、積極的で建設的な高萩にふさわしい体力と気力をもつ市民を育てあげることにもなります。

このように考えると国体が高萩で開かれることはまことに市勢躍進と、市民意識の高揚をはかる絶好の機会でもあります。

㈡市民運動の必要性

わたしたちは、国体を迎えるにあたつて、市民運動の必要性を見出すことができるのではないかと思います。なぜならば茨城国体の開催を契機とする市勢の躍進と市民意識の高揚をはかるために、市民一人一人の自覚と、それに基づく市民すべての相互協力によつてはじめて実現することができると考えられます。

わたしたちが国体高萩市開催の意義を理解して、その成功を期する心構えを確立するとともに、これを機会に街づくりの推進や積極的、建設的、市民性の育成をめざす一大市民運動の展開をはかる必要があると思われます。

このような観点から明るく住みよいまちづくりをすすめるため、市民運動推進協議会を設置して市民運動を開展いたします。